

研究課題名	鋭的頸部損傷における手術介入の基準：単一施設による後方視的研究
研究の意義・目的	頸部の刺創や切創といった、いわゆる鋭的損傷はその解剖学的特徴から致命的になり得ることが多い外傷である。今までは体表に最も近い、広頸筋が損傷している場合は手術介入をするべきであるとされていたが、昨今では全例手術介入を必要としない可能性が示唆されている。しかし、他の頭部や体幹部の外傷とは異なり、明確なガイドラインは存在せず、一定の見解はない。当院では鋭的頸部損傷の症例を多数経験しているため、鋭的頸部損傷における手術介入に必要な基準を研究することで、鋭的頸部損傷の治療の標準化と患者救命率の向上に寄与すると考える。
研究を行う期間	機関の長の実施許可日 ～2025 年 12 月
研究協力をお願いしたい方 (対象者)	2007 年 7 月～2024 年 7 月の間に大阪公立大学医学部附属病院救命救急センターに搬送され、鋭的頸部損傷と診断された患者様
協力をお願いしたい 内容と研究に使わせて いただく試料・情報等の項目	診療の過程で得られた下記項目を本研究に使用させてください。 ① 患者情報(診断名、年齢、性別、既往歴、検査データ、CT 画像) ② 手術情報(手術内容、術中所見)
試料・情報を利用する者の範囲 および管理について 責任を有する者の 研究機関の名称	この研究は、公立大学法人大阪 大阪公立大学大学院医学研究科救急医学のみで行います。 【研究責任者】芳竹 宏幸
本研究の 利益相反	利益相反の状況については研究者等が利益相反マネジメント委員会に報告し、その指示を受けて適切に管理します。本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。
研究に協力を したくない場合	診療情報が当該研究に用いられることについてご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも不利益を受けることはありません。
連絡先	大阪公立大学医学部附属病院 救命救急センター 担当者氏名：芳竹 宏幸 電話番号：06-6645-2600 メールアドレス：c21015m@omu.ac.jp